切り絵『丑』　比企善彦 作

うぶすな

茨木神社社報
発行所
茨木神社社務所
茨木市元町4−3
072(622)2346
https://www.ibarakijinja.or.jp/

「変わらない祈りのために」

今年に入り国内に持ち込まれた新型コロナウイルス感染症は、またたく間に全国へ拡散し、その終息は未だ見通せない状況にあります。四月には緊急事態宣言が出され、その解除後も密なる接触を避けるため、人々の行動・活動が制約され、自粛を余儀なくされる日々が続いております。当神社におきましても感染防止のため年毎恒例の祭事を総代及び関係団体の代表者のみの参列にて斎行するとともに、併せて感染症の鎮静を大神様に奏上してまいりました。

永い歴史の中でこれまで幾度となく疫病が流行し人々を苦しめてきました。そして祖先達はその都度、疫病を鎮めるべくあらゆる手立てを講じ、その災厄を祓うために神々に祈りを捧げました。まさに祖先達は人事を尽くして天命を待つ思いでその日々を過ごしていたのです。

もうすぐ令和三年の正月を迎えます。当神社としても様々な防止策を取り、皆様が安心してご参拝していただける環境を作ってまいる所存です。皆様にもマスク着用や会話を控えていただく等、ご協力をお願い申し上げます。

この疫病が一日も早く収まり、人々が穏やかな日常に戻りますよう心から祈念申し上げます。

●新型コロナウイルスの当社への影響

今年に入り、新型コロナウイルス感染症の拡がりは国民に自粛を強いるものでした。その影響は多方面に及び、当神社の恒例の神事・行事も形を変えて斎行せざるを得なくなりました。

・「大祓・輪くぐり神事」並びに「人形祓神事」

例年六月三十日午後二時から多くの氏子・崇敬者のご参列のもと斎行しております「大祓・輪くぐり神事」並びに「人形祓神事」は「密」を避けるため、斎行時刻を午前八時半に変更して神職のみで斎行し、その後「茅の輪」を終日設置いたしました。あいにく朝から雨が降っておりましたが、一日を通じて密になること無く、多くの方にご参拝いただきました。

仮殿内での神事の様子

宮司によるくぐり初め

・夏祭

例年七月十三日・十四日に斎行しております夏祭につきましては、本殿に神輿を据えて神事を斎行する「居祭（いまつり）」という形式で行い、氏子地域への神輿・太鼓の巡幸・巡行は中止となりました。

午前十時より総代・祭礼委員長並びに役員の方々のご参列のもと、神事を斎行し、居祭となったことの奉告とコロナ禍の一日も早い終息を併せて大神様に祈願奏上申し上げました。

また午後二時からは、茨木神社雅楽会による奉納演奏が、演奏する人数・演目を減らして実施されました。

仮殿に据えられた神輿

・例大祭

十月十日の例大祭は参列者を総代及び各会の代表者に限り、例年通り斎行いたしました。

・新型コロナウイルス感染症拡大防止の当社の取り組み

手水舎は接触感染防止のため、柄杓を撤去し、流水で直接手を清めていただけるようにいたしました。

仮拝殿前や休憩所など境内各所にアルコール消毒液を設置するとともに、授与所には飛沫防止のためビニールシートを設置しております。

●御本殿創建四百年記念「令和の大造営」進捗状況

・旧本殿等の解体

御本殿創建四百年目となる令和四年の佳節に向けて、平成二十九年三月より「令和の大造営」を遂行しております。前号で既報の通り、六月十一日に仮殿遷座祭を斎行し、大神様を本殿から仮殿へお遷し申し上げました。その後六月下旬より解体工事が始まり、まず基壇の石垣・石段の撤去が行われました。全ての石類には、将来の復元のため番号が付けられました。

基壇の石垣・石段の撤去

七月中旬からは工事幕が張られて、幣殿・拝殿が解体されました。まず屋根の銅板を取り外し、拝殿から順次取り壊しが始まりました。

工事幕の組み立て

幣殿・拝殿解体

八月上旬には幣殿・拝殿の解体が終わり、基壇の上には天にそびえるかの如く旧本殿のみが残り、素朴さの中に威容を感じます。

旧本殿の様子

旧本殿に組まれた素屋根

その後、旧本殿に素屋根が組まれ、九月・十月の約二ヶ月かけて、用材一本ずつ確認・調査しながら解体されました。

旧本殿解体後の基壇

十月上旬には本殿の解体工事がほぼ完了し、基壇のみが残る状況となり、この後、基壇も撤去して更地の状態に整備いたします。

造営工事の間、ご参拝・ご祈祷等は仮殿にて通常通り斎行いたしております。ご参拝の皆様には何かとご不便をお掛けいたしますが、ご理解・ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

・本殿地鎮祭

十一月十七日晴天の下、四百年記念事業委員会堀茂夫委員長をはじめとする事業委員の方々、施工業者及び設計者、そして神社関係団体の代表の方々ご参列のもと、本殿地鎮祭を斎行いたしました。

当日午前十一時から古式に則り、本殿建設用地の四方及び中央に、五色の御幣と盛砂を設け、まず仮殿に於いて奉告祭を斎行しました。続いて、本殿建設用地に場所を移し、四方清祓の後、設計者による刈初の儀、堀委員長と宮司による穿初（うがちぞめ）の儀、斎主による鎮物埋納の儀、施工会社の代表による鍬入（くわいれ）の儀

本殿地鎮祭

と続き、関係者の見守る中粛々と神事は斎行されました。

●ご奉賛への御礼

令和元年十月より、氏子・崇敬者の皆様に御本殿創建四百年記念事業「令和の大造営」へのご奉賛をお願い申し上げたところ、数多くの方々から御篤志を賜りました。ここに厚く御礼申し上げます。今後とも、事業完遂のため格別のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

●神社誌編纂室だより

御本殿創建四百年記念「令和の大造営」の竣工を記念しまして、現在「茨木神社誌（仮称）」の編纂作業を進めております。歴史や祭礼などをまとめた本にする予定です。その内容の一部を随時皆様に御報告するために、本紙に「神社誌編纂室だより」の欄を設けました。氏子の皆様の氏神様への厚い崇敬の歴史を感じて頂ければ幸いです。

なお、刊行時期は本殿完成後を予定しております。

・南鳥居前の狛犬一対

ＪＲ茨木駅と阪急茨木市駅を結ぶ中央通りに面した南鳥居を入ってすぐに、一対の狛犬が参拝者を迎えてくれます。

現在の様子

大正13年の様子

この狛犬は大正十三（一九二四）年一月に建立されたことが西側狛犬台座の碑文より分かります。東側狛犬台座の碑文には、「茨木町　小林四三郎・小林新・小林鹿太郎」と刻まれています。

建立当時の写真では、一対の狛犬を囲むように竹を立てて注連縄が張られ、おそらく竣功の清祓が斎行された際の様子だと考えられます。出来たばかりの狛犬が、白く輝いている様子が分かります。

当時の境内の様子は、石畳はまだなく、今はない松の木が狛犬後方すぐに二本見えます。またこの時期にはすでに狛犬後方の雪見灯籠が設置されていたことが分かります。また西側狛犬のすぐ左には、高札が掲げられています。詳細な内容は読み取ることは出来ませんが、大阪府が境内の木々の伐採を禁じている内容だと推測出来ます。本殿は茅葺きであり、現在も現役の神輿庫（現在の参集殿前）もこの時代には既に建設されていたことが分かります。

また参列者は、当時の正装である紋付袴の方が多いのも、その時代をよく表しています。中央に写っている神職は当時の社司（宮司）である岡市正人氏です。

これからの行事予定

◆越年祭
十二月三十一日

◆歳旦祭
一月一日午前十時斎行

◆十日戎祭
一月八日～十二日

◆御火焚（とんど）
祈祷木奉焼祭
一月十五日

◆節分祭
鎮魂星祭
二月二日

◆初午祭
二月三日

◆紀元祭
二月十一日

◆人形奉焼祭
四月八日

◆春祭（祈年祭）
奉賛会厄除安全祈願祭
四月十八日

◆大祓・茅の輪くぐり神事
六月三十日

初詣は、混雑を避け、分散してご参拝下さい。その際、マスクの着用と控えめな会話をお願い申し上げます。